

小林市議会「市民との意見交換会」地区別意見交換会【報告書】

開催地区	西小林小校区	担当班	議員名	担当
参加人数	18人（男性18人 女性0人）		海老原 幹朗	司会進行
開催日	平成29年7月12日（水）		福本 誠作	活動報告
開催時間	午後7時～午後8時30分		窪菌 辰也	記録・報告書作成
会場	西小林地区公民館		大迫 みどり	
その他		1班		

◎班代表者 大浦 竹光

意見交換会の内容		※□市民の意見	■議員の意見
統一テーマ	「地域交通について」・「空き家活用について」		
【意見交換の概要】 「地域交通について」 □コミュニティバスを利用しても、帰りのバスの時間に間に合わない。 ■同様の意見を多く聞く。議会全体で議論を深めていきたい。 □吉都線もあり、バスには乗らない。地区で福祉バスを走らせてはと、都城市庄内地区を視察した。事故のことなどを考えればタクシーなど走らせる方がいいのではと考えるが。 □デマンドがいいかと考えている。年々運転免許返納者が増えてくることを考えて計画してほしい。乗り合いタクシー・デマンドなど早急に実現させてほしい。 ■安心して運転免許返納できる体制をできるだけ早く構築するよう行政と議会全体で議論を深めていきたい。 □地域交通網形成計画の調査結果をどう分析したか。 ■「帰りのバスの時間が合わない」、「バス路線まで遠い」などが利用しない大きな理由として挙げられている。 □利用者が少なければ赤字になっていると思うが詳しく説明してほしい。 ■コミュニティバスだけで1,500万円、路線バスなど全て含めると約7,200万円の赤字である。 □まちづくり基金が3億円位ある。デマンドバスなど地域が取り組む事業に支援してほしい。 ■議会全体で議論を深め、地域の意見を伝えていく。			

□運転免許返納者にタクシー券やバス券など出している自治体もある。

■各市町村で色々な取り組みを行っている。路線バス1年間の利用券やタクシー券などあるが、小林市では行ってない。議会全体で議論を深め、地域の意見を伝えていく。

「空き家活用について」

□空き家バンクがなかなか進まない。市から「どんな人が借りるのか分からない」と言われ、借りた人が常会に入ってうまくやっていけるのか不安になり登録しなかった。

■借りる方も地域の方もお互いに不安があるようだ。宿泊所として貸し出すなどの活用方法もある。議会全体で議論を深め、地域の意見を伝えていく。

□古い家を壊すと固定資産税が高くなり、解体費用もかかるので、家主は税金だけ払ってそのままにしている。何か方法はないか。

■国の法律に基づき、行政は実施しているが、空き家対策は進んでいない。市民との意見交換会において様々な意見を聴取し、何が必要か議会全体で議論し、地域の意見を伝えていく。

□空き家にごみがある場合、撤去費用を市が出すなど具体的にしなければ進まない。

■有効活用や支援を考えていきたい。地域の意見を聴取し、議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

□リフォーム補助金が50万円まで出るというが、どの位までできるのか。空き家を活用し定住促進しようとするなら、市は本気になるべき。50万円では人が住める家にはできない。

■議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

自由意見の交換

※□市民の意見 ■議員の意見

□有料粗大ごみが無料になったとあるが、何でも出せるのか。

■清掃工場に持ち込めるもの。(ごみ分別虎の巻参照)

□ごみの分別が厳しい。1つ違反があっても持っていけない。

■宮崎市・都城市も分別するようにしたと聞いた。分別が厳しいとはよく言われる。

□ごみ収集業者は随意契約か、入札は行われているのか。

■最初は3社で、今回は2社でプロポーザルが行われた。

□産婦人科問題で議会としては何かしているのか。

■議長が3首長とともに知事に陳情に行っている。西諸2市1町で進めていくように意思決定している。

□小林市の出生数は３６９人、そのうち市内で出産した人が４３人、えびの市で９９人。若い人たちの意見を十分取り入れるなど、調査して対策を考えるべき。

■言われるとおり約４割弱が西諸管内、６割強が西諸以外となっている。市内に病院がないからというだけでなく、病院の対応がいいという声もある。まずは、医師確保に西諸２市１町で、首長・議会が足並みをそろえて取り組む。

□小林市立病院の産婦人科・小児科を充実してほしい。

■妊婦の健診については、宮崎大学からの派遣医師により行っているが、健診と出産する病院が違ふと不安があるのか、予約が伸びていない。どうすればいいのか議会でも議論を深めていく。えびの市・高原町の首長は小林市立病院での産婦人科充実という意見で統一している。議会としても協力していきたい。

◎小林市立病院での産婦人科（分娩）再開について

意見交換会では、小児科・産婦人科の充実を求める意見が各地区で出されました。その後、西諸出身の医師を中心とし、宮大医学部産婦人科の支援のもと、平成３０年７月から小林市立病院での産婦人科（分娩）を再開する運びとなりました。また、９月定例会では、妊婦等に対し通院にかかる交通費として妊娠１回につき２万円交付する予算が可決されました。

議会活動報告への意見

※□市民の意見 ■議員の意見

特になし